

令和 7 年 3 月 17 日発行

真言宗御室派



長泉寺

〒700-0807

岡山市北区南方 3 丁目 10 番 40 号

TEL (086) 223-7450

FAX (086) 221-0302

振込 岡山 01250-6-6418

ホームページ www.chosenji.net

長泉寺だより 第 353 号



死んだらどこへ行くのか？来世は何になるのか？巷ではよく聞く話だが、それは古くインドに由来する「輪廻」という思想に基づく。

そもそも来世などあるのだらうか？

仏教では「六道輪廻」が説かれる。即ち死後、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の六つの世に生まれ変わり、その枠内で衆生は生死を繰り返すという。どこへ生まれるかは前世の業に依るため、なるべく善業を積み、悪業は取り払っていかねばならない。そして目指すべきは六道での輪廻から抜け出すこと——「解脱」である。

しかしながら、それは現代の人々にどう響くであろう。方便とはいえ、科学的根拠のないも

輪 廻

ひ と も し

のには納得しないのではないか。六道輪廻は、もはや昔話の類に過ぎないのだろうか？

六道をよく観て欲しい。地獄から天に至るまで、その内実はすべて現実の問題である。死んだ方がマシだと絶望する者（地獄）、飢える者（餓鬼）、差別に
あえぐ者（畜生）、殺し合う者（修羅）、人生に四苦八苦する者（人間）、富や権力を得てもそれを失うことに怯える者（天）、世界はそのような者たちで溢れている。そしてそれらは連鎖を繰り返す。まさに「輪廻」そのものである。

世界は今こそ六道輪廻からの解脱が必要である。世界大戦が一度始まれば、そこからの解脱は益々に難しい。（龍）

本尊法楽 先祖供養

万灯万華供養 本尊大祭

5 月 5 日、6 日、7 日 毎夜 18 時半～「万灯万華供養法要」

5 月 8 日(木) 13 時～16 時 結願「中曲理趣三昧法要」

法話「花のこころ」能化 林 康悠 師 倉敷市行願院住職

本尊厨子が開扉され 三日三晩 全九座の法要を奉修
回向塔婆 灯篭供養にて 檀徒各家精霊に回向を捧げます
5/8 結願には 岡山市内有縁の真言宗寺院様にご参集され
盛大な法要が執り行われます どうぞお繰り合わせご参拝下さいませ

回向塔婆供養 二千元也／一本

灯 篭 供 養 二千元也／一基

位牌供養申受け 三千元也／一基

※お位牌を本尊前にて三日三晩ご供養いたします

詳しくは別紙ご案内用紙をご確認ください

節分星まつり

二月二日の節分、檀信徒皆様の除災招福、開運厄除けを祈願する「星まつり」を奉修しました（参拝約七十名）。

檀信徒皆様が産まれながらに持つ本命星と、今年一年の当たり星である当年星、さらには寿命や福徳をつかさどる元辰星に供養を捧げる「星供養法会」を厳修し、法楽太鼓や錫杖の音が鳴り響く中、ご縁ある寺院僧侶やお参りの皆様と一緒に「般若心経」、本尊「頂輪王咒（真言）」をお唱え



しました。

法会後は、「備前太鼓唄弘西普及会」の皆様より獅子舞をご奉納いただくとともに、「鬼は外！福は内！」と豆まきを行い、皆様笑顔で、晴れやかなる春の訪れとなりました。

なお、厄除けの供物は、参拝者皆様に分けてお持ち帰りいただくとともに、一部は児童養護施設「若松園」様にご寄付させていただきます。

ご協力いただいた皆様には厚く御礼を申し上げます。



涅槃会

釈尊入滅日である二月十五日、玉佛釈迦如来像を祀る玉佛堂に涅槃図、並びに十六羅漢図を掲げ、涅槃会を奉修しました。

真言宗では、涅槃会に際して「涅槃」、「羅漢」、「遺蹟」、「舍利」と四座に分けて行う「常樂会（四座講式）」を奉修するのが一般的ですが、あまりにも長時間となるため、当山では四座それぞれにある「和讃」を中心にお唱えし、いわば常樂会のダイジェスト版のような形で奉修しております。

ご参拝いただきました皆様には有り難うございました。



寺子屋文化講座



一月二十一日、就実大学の浅利尚民先生を講師にお迎えし、「第四十九回寺子屋文化講座」を開講しました。今回のテーマは「池田綱政」で、当山の山号にその足跡が残る「薬園」、および「白須賀観音」についてのご講演いただきました。

林原美術館へ長年勤務をされていた浅利先生は、綱政公自筆の文書や側近が残した資料等の調査を深められており、スライドでそれらを紹介しながらわかりやすく解説下さいました。

阪神淡路大震災三十年



をいただきました。

当山本尊薬師如来の御前にて、同震災で亡くなられた方々を悼み、その御霊安らかなれと弔い申し上げるとともに、被災者皆様が今日まで歩んでこられた道のりの切なく、険しきことを深く心に致しながら、皆様のこれからがどうか恙ないものとなりますよう至心にご祈念させていただきます。次第です。

一月十七日、「阪神淡路大震災」より三十年を迎えるにあたり、RNN人道援助宗教NGOネットワーク（事務局・黒住教本部）のメンバーが当山本堂に集まり、慰霊祭を行いました。

発災時刻である五時四十六分、開式とともにRNN委員長の永宗幸信師（天台宗本性院住職）によるご先導で一黙祷を捧げ、以降は当山僧衆による真言宗の作法に基づく法会を厳修。我々が「般若理趣經」を唱え奉る中、参拝者皆様にはお焼香

宗旨宗派の異なる方々が集まった同慰霊祭でしたが、まさに心をひとつにご供養させていただけたかと存じます。最後にRNN事務局長の黒住宗道師（黒住教教主）がご挨拶をされ、閉式となりました。



RNN 事務局長 黒住宗道師

故西岡昇氏十七回忌法会



当山檀信徒総代長を四期十三年にわたって勤められた故西岡昇氏（享年八十四）の十七回忌法会を三月四日、ご当家参列の下、玉佛堂で奉修しました。

西岡氏は、平成八年に総代長に就任されて以降、白須賀観音堂の修復、永代供養「樂陽廟」の建立、総本山仁和寺ご門跡を御導師に仰いだ中興四十周年記念大法会、さらには隣地買入など、当山の護持発展に多大なるご功績を残されました。

そのご遺徳を讃え、深く感謝の念を捧げる次第です。

コンサート環

長泉寺合唱団ナーガは二月二日、ルネスホール（北区内山下）で行われた「コンサート環」に出演いたしました。

同コンサートは、ナーガの指導者でもある佐々木英代先生が主宰されるもので、毎年この時期に開催され、今回で二十二回目となります。

ナーガも練習の成果を発揮し、素晴らしい歌声を届けることができました。ご来場いただいた方々には、有り難うございました。



真言宗の開祖である弘法大師

空海様は、宝亀五年（七七四）

六月十五日にご誕生されました。

岡山市内の真言宗寺院十五ヶ

寺で結成される「岡山市弘法大

師降誕会」は、毎年六月十五日

にお大師様のご誕生をお祝いす

る「青葉まつり」を開催し、慶

祝法会、並びに灌仏儀を奉修し

てきました。

本年は、お大師様が天長九年

（八三二）に奉修された万灯会

における「願文」を紐解き、お

大師様の大きな願いにふれて

いただく法会を下記概要にて執

り行います。

どなたでもお参りいただけま

すので、どうぞお繰り合わせご

参拝下さい。

合 掌

岡山市弘法大師降誕会

弘法大師ご誕生慶祝

青葉まつり

本年は、お大師様が「万灯会願文」に込められた大願にふれ、

お大師様とのご縁を深めていた

だく法会を行います。

※日時※

令和七年六月十五日（日）

◇第一会午後一時～

◇第二会午後二時半～

二座奉修しますので、いずれか

の時間にご参拝下さい。なお、

当日参拝者多数の場合はお待ち

いただくことがあります。ご了承

下さいます。

◇当日限定の「特別朱印」も用意

しております（奉納五百円也）

※会所※

真言宗御室派大福寺

岡山市中区御成町十五―四

参拝料五百円也（記念品有り）

服装自由・申し込み不要

ご詠歌巡礼

当山ご詠歌会

は二月二十五日、

大瀧山（備前市

大内）へお参り

しました。

同山は奈良時

代、鑑真和上に

より開かれた寺院で、菅原道真

編纂『類聚国史』（平安初期）

にもその名が出てくる県内最古

の寺院の一つです。歴史の中で

火災や戦乱にも遭いますが、足

利氏、池田氏などから厚い庇護

を受け、最盛期には三十三坊を

誇る大寺院として栄えました。

一行は、同山西法院様のご

本堂でご詠歌を

奉納した後、地

元の人気店で昼

食をいただくな

ど、有意義で楽

しい巡礼をさせ

ていただきました。



ボランティア基金だより

いつもお心を寄せていただき
ありがとうございます。

◇志納金 一八、一七二円

令和六年十二月七日

令和七年三月十五日

◆能登地震被災者救援募金

白神美保、中村久美子、橋本時夫、

橋本蔦枝、平田弥生、山田紀香、

入野慎乃祐、高取富佐子、朝森喜

久子、朝森弥英、朝森明美、石原

緝吾、家守徑子、家守由佳、佐藤

恭子、原田清子、船岡安樹子、石

原敏江、伊藤圭子、富田英行、光

岡香里、白神勝彦、齋藤忠文

◆ボランティア基金

藤岡孝子、佐藤恭子、白神美保、

湯浅章夫、片岡陽平、穂束清隆、

穂束嘉隆、木庭洋介、光岡香里、

中村久美子

◆ウクライナ難民支援金

佐藤恭子、白神美保

以上、敬称略

ご案内
日中仏教文化交流訪問団
中国洛陽・西安参拝

長泉寺杖心会は今秋十月十六日～二十一日、日中仏教文化交流事業の一環として、岡山市との友好都市である中国洛陽市にある白馬寺様、並びに真言宗祖弘法大師が惠果和尚より密教を授かった西安市青龍寺様を参拝いたします。

参加費用は二十二万～二十五万円ほど（燃油サーチャージ、空港税など別途必要）で、岡山市日中友好協会様の全面協力の下、全行程に日本側のガイド通



白馬寺山門（洛陽市）



龍門石窟 盧舎那仏像（洛陽市）

訳、洛陽、西安では中国側の通訳ガイドも付き、不便なく安心して参りできる内容です。

特に、中国最古の寺院「白馬寺」様においては「日中仏教文化交流」の公式訪問となりますので、同寺の管長猥下が直々にお迎え下さるなど、一生の思い出となるような貴重な体験ができることでしょう。

さらに洛陽では世界遺産である龍門石窟へ参ります。龍門石窟とは、「奉先寺」という石窟寺院で、その本尊である盧舎那仏像は弘法大師も唐への留学

中、参拝を懇願されたほど素晴らしいものです。またそこは、真言密教の最重要經典である『金剛頂經』を伝え、「付法八祖」の第五祖である金剛智三藏の墓所でもあります。今回はさらに、『金剛頂經』と並び真言密教最重要經典である『大日經』を翻訳され、「伝持八祖」の第五祖に数えられる善無畏三藏が眠る「広化寺」（龍門近郊）へも参ります。

また西安では、若き日の空海様が遣唐使として中国へ渡り、惠果和尚より密教の全てを授か



青龍寺 惠果和尚像と弘法大師像（西安市）

つた聖地「青龍寺」を参拝するほか、一九七十年代に発掘された（二十世紀最大の発見）とも、約八千体におよぶ陶製の兵馬が並ぶ「兵馬俑」、秦の始皇帝がその身体を癒し、唐の玄宗帝が楊貴妃との日々を謳歌した「華清池（宮）」、さらには玄奘三藏が天竺から般若經典を持ち帰り、それを翻訳した「大慈恩寺」（經典類を納めた「大雁塔」も同寺内にあります）などへも参ります。

この貴重な機会にぜひ多くのご参加をいただければと願っております。ご興味のある御方は当山までご連絡下さい。



大慈恩寺 大雁塔（西安市）

今回は、岡山に残る神仏習合の遺蹟をご紹介します。

東照大権現の誕生

さて、仏教が伝来してから中世にかけて、神が仏を護り（鎮守）、仏が神を護る（神宮寺）という信仰が定着し、さらには本地垂迹説に象徴される思想的な発展も伴って、天皇から一般にいたるまで神仏習合は深く根付くところとなりました。

特に山岳信仰との関わりが強い密教との習合は進み、真言密教系では大和国「大神神社」に興った「三輪流」、天皇家の流れを汲む「御流」などの「両部神道」が発達。比叡山でも天台密教と神祇信仰（山王権現）が融合した「山王神道」が隆盛しました。※前号参照

江戸時代に入り、都を関東に移した将軍徳川家康は、「厭離穢土欣求浄土」と書いた幟

幡を掲げ、浄土思想を信奉しました。戦乱の世が終わり、新たに創る都の名をあえて「江戸（穢土）」としたのも、自らの

力で浄土を創る！という強い意気込みだったのかもしれませんが。

家康による新都建設には、山王神道を「山王一實神道」と進化させた慈眼大師天海が將軍指南役として関わりました。江戸城鬼門（北東）への浅草寺建立や五街道の整備は、天海の助言によるものと伝わります。家康は世界一の都市を創るため、神仏にも力を求め、天海の智慧を珍重したのです。その意味で江戸は、山王神道に基づいて設計された都市とも言えます。

天海を信頼していた家康は、「死後は日光山にて関東の守護神となる」と遺言します。やがて家康が亡くなると、二代将軍秀忠の命により、天海が主導して「東照社（現・日光東照宮）」を創建。山王一實神道を奉じる

天海によって、家康は遺言通り江戸、並びに関東を護る神——「東照大権現」となりました。

東照大権現が岡山へ

さて、岡山の話に入ります。が、宇喜多家に始まり小早川家、池田家と続いた岡山の街づくりにおいて、池田藩初代光政は、東照大権現の威力を求めました。光政は東の比叡山「東叡山寛永寺」に居た天海に対し、東照大権現の分神を岡山へ勧請することを依頼したのです。

日光山において天海自らが開眼供養を行った分神は、光政が派遣した神輿に乗って岡山へ来ると、玉井宮のある幣立山へ鎮座。天海の弟子で、後に日光山貫主となる公海が導師となり、分神を新たに祀る「玉井宮東照宮」の落慶法要が奉修されました。光政はさらに、同地へ天台宗利光院（現・東山公園）を開創し、玉井宮東照宮の別当（同宮



玉井宮東照宮（岡山市中区東山）

を維持管理する寺）としました。

正保二年（一六四五）のこの出来事により、岡山も山王一實神道が奉祀する東照大権現によって守護される街となりました。ちなみに現在、東照宮は全国各地にあります。この光政による東照宮の分神祭祀が、我が国で最初の事例です。

岡山・備前国府の神仏習合

ところで、それより以前の岡山はどうだったのでしょうか？

岡山という街は、鳥城（岡山城）の西方に堀が巡らされ、そこに城下町が築かれていったという歴史の延長線上にあります。それは宇喜多氏が自らの居城を旭川西岸、石山に築いたところから始まります。しかしそれより以前、即ち室町後期頃までは、商業の中心は備前福岡、つまり現在の瀬戸内市・吉井川流域にありました。では政治の中心はどこだったかというと、現在の岡山市中区国府市場に「備前国庁跡」があり、その近辺であろうと推定されます。

北に龍ノ口山、南に操山と南北が山に挟まれ、西には旭川が流れるというその土地は、湯迫温泉が湧き、雄町の冷泉にも恵まれるという沃野で、さらには旧山陽道が通ることからも備前国の重要拠点だったことがわかります。

その近辺の寺社を見ていきますと、龍ノ口山には山上に八幡宮、西端に備前国総社宮があり、その山麓を東方へ向かうと安養寺（賞田）、浄土寺（湯迫）という天台宗寺院が並びます。両寺には「山王宮（日吉社）」が併存しており、山王神道の面影を今に残します。

一方の南側、操山の山中には、多くの古墳や神社、そして神仏が習合した山岳信仰の足跡があり、その北面山麓には東方より山本院（米田）、長楽寺（今谷）、恩徳寺（沢田）、安住院（国富）と真言宗寺院が順に並びます。龍ノ口山と操山とで、天台宗と真言宗が見事に分かれているというのも面白いところであります。

さらに同地には、賞田廃寺（賞田）、幡多廃寺（赤田）、居都



浄土寺
旧山王宮の鳥居神額

廃寺（宋甘）といった飛鳥・奈良時代にまで遡る巨大寺院の遺構が残り、古代以来の繁栄を物語っています。

JR東岡山駅の方を見てみますと、同駅東に「山王山」（岡山市東区宋甘）という小高い山があり、その西方が土田、さらにその西方に四御神という地域があります。「四御神」とは読むのも困難な珍しい町名ですが、それは同地に鎮座する「大神神社」に由来します。

同社は『延喜式神名帳』（延長五年・九二七）に出てくる古社で、「伊勢国鳥羽より遷宮」との伝もあります。近世までは「オオムワ（ミワ）ノ神社」と呼ばれており、大和国「大神神社」の流れを汲んでいるものと思われる。そうであれば三輪流神道が大きく影響しているはずで、特に驚くのは当時の境内がなんと約一・八町、つまり五千坪を超えるほど広大だったと

いうことです。その神仏の力たるやどれほど凄かったのか？と感心する次第であります。

以上、備前岡山における神仏習合が躍動した時代の足跡をご紹介します。紙幅の関係で取り上げられませんが、ご存じのように岡山には、瑜伽山や最上稲荷など、神仏が習合する寺社が今も存在します。

次回はそのような神仏習合が、いかに我ら日本人の精神性に影響しているかということについてご紹介いたします。

（次号へ続く）



おおが
大神神社（岡山市中区四御神）

長泉寺 寺子屋 文化講座

開講 50 回記念 「神仏と霊山」

開講 50 回を記念して、民俗学者として著名な神崎宣武先生を講師にお迎えします。

テーマは「神仏と霊山」。

備前における熊山をとりあげながら、神仏習合と霊山信仰の密接な関係を考察します。



講師: ^{かんざきのりたけ}神崎宣武 先生
民俗学者

3 月 25 日 (火)
19:00~20:30

於:長泉寺本堂

参加無料・予約先着 60 名
多数の参加が予想されます。
参加ご希望のお方には、
お早目にお申込み下さい。

ぜひ
一緒に行こう!



総本山仁和寺



高野山奥之院

4/12 (土) ~ 13 (日)

参加費 ¥45,000 (大人 1 名)
全行程貸切バス移動 (長泉寺発着)
宿泊 ホテルシングルルーム利用
申込締切 3 月末

主催 長泉寺 杖心会 詳細別紙

仁和寺
高野山
参拝の旅

将棋クラブ

毎月一回 客殿で開催中 参加無料

■83 回目

4 月 27 日 (日) 13:30~16:00

■84 回目

歩 5 月 24 日 (土) 13:30~16:00 歩

いつも集まったメンバーで楽しくやっています。
どなたでもお気軽にご参加ください。

青葉まつり

弘法大師ご誕生度讃

6 月 15 日 (日) 午後 於:大福寺 詳細別記



秋尊ご誕生慶祝 花まつり

4 月 8 日 (火) 13 時~15 時

於:後樂園鶴鳴館 主催:岡山市仏教会

永代供養塔 樂陽廟

春秋祭

4 月 21 日 (月) 11 時~

奉修 合同追悼法要 於玉佛堂

長泉寺の公式ホームページをぜひご活用下さい

長泉寺 南方

検索

住職のブログ、月行事日程、文化教室のご案内など長泉寺の様々な情報がご覧になれます